

2025 ふるさとキャリアシンポジウム「ふるさと釧路で働くということ」会議録

日 時 令和7年7月8日（火）10：15～11：15

場 所 釧路中央図書館7階多目的ホール及び各中学校の教室等

※オンライン Google Meet を利用して開催

テーマ：「働くこと」と「生きがい」「ふるさと釧路のよさ」

パネラー：一般社団法人釧路青年会議所 理事長 星野 敦生

釧路市教育委員会 教育長 岡部 義孝

コーディネーター：釧路市教育委員会地域学校協働本部 統括的な地域学校協働活動推進員 森 敏隆

発言者	発言要旨
佐藤指導主事	<p>ただいまより、ふるさとキャリアシンポジウム「ふるさと釧路で働くこと」を開会いたします。</p> <p>本日の司会を務めます釧路市教育委員会の佐藤でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本日はご案内の通り、釧路市中央図書館と市内14中学校と阿寒湖義務教育学校とオンラインでつないでおります。</p> <p>本日は、お二人のパネラーから、「働くこと、そして生きること、ふるさと釧路で働くということ」についてお話をいただきます。</p> <p>パネラーは、一般社団法人釧路青年会議所 星野敦生理事長と釧路市教育委員会 岡部義孝教育長にお願いしております。</p> <p>また、シンポジウムの進行につきましては、釧路市地域学校協働本部 森 敏隆統括的な協働活動推進員に務めていただきます。</p> <p>およそ1時間のシンポジウムになりますが、途中、生徒の皆さんからの質問を受け付けますので、進んで質問してください。一緒に「学ぶこと、働くこと、そして生きること」について考えていきましょう。</p> <p>それでは、森推進員よろしくお願いいたします。</p>
森推進員	<p>「それではシンポジウムを始めたいと思います。皆さん、メモの用意はよろしいでしょうか。」</p> <p>「まずは仕事の内容を含めて自己紹介をお願いいたします。」</p> <p>「岡部教育長 お願いします。」</p>
岡部教育長	<p>皆さんは教育長と聞いてどんな仕事をしているか、あるいは教育長って聞いたことがある人はいるか。</p> <p>簡単に申し上げますと、教育委員会を1つの会社に例えた時に、教育長というのはその会社の社長だという風に思っただけだと思います。教育委員会という会社はどんな仕事をしているのかというと、大きくは学校教育と生涯学習の分野に分かれています。学校教育とは、釧路市内に39の小学校、中学校、義務教育学校がある。皆さんの中学校を含めて、それぞれの学校ごとには責任者として校長先生がいるが、私はその39の学校全てに責任を持つ立場であるという風に考えていただければと思う。</p> <p>もう1つの生涯学習の分野では、例えば今私は、北大通にある中央図書館の会議室から皆さんにお話をさせていただいているが、この中央図書館やまなぼつとや動物園や文化会館、湿原の風アリーナ、そういった様々な文化施設、スポーツ施設、そしてその中で繰り広げられる様々な事業についても最終的な責任を持っている立場ということになる。</p> <p>今日は、画面の向こうにおられる約1,000人の皆さんとディスカッションできることを大いに楽しみにしてきました。</p>

森推進員	<p>1点だけお願いがあるが、今日かなりまた気温が上がっているので、どうぞ皆さん、水分を取りながらこのディスカッションに参加していただければと思う。</p> <p>「続きまして、星野理事長、お願いいたします。」</p>
星野理事長	<p>仕事は、鉦路川北の東家というお蕎麦屋さんをしており、鉦路のお蕎麦と言えば緑色という店が多いが、うちのお店も緑色のお蕎麦を打っている。</p> <p>鉦路青年会議所は、川北東家の本業の仕事とは別だが、鉦路青年会議所というところはいろんな会社の人たちが集まって、鉦路のために、例えば観光だとか、教育については、それを学校教育だけではなくて地域の人たちと一緒にどうやって学べるか、そのような活動を行っている団体である。</p> <p>観光においては、鉦路は結構涼しい町という風に認知されていて、訪れる観光客は多いが、もっと鉦路に来てくれる人を増やして、鉦路にお金を落としてもらって、鉦路地域の経済効果というのをどうやって上げていくか、色んな企業の人が集まって会議を重ねて実際に何かアクションを起こしてみる、そういったような活動をしている。</p> <p>また、川北東家というお蕎麦屋さんには、鉦路には20店舗ぐらい同じ東家というお店があるが、その中の1つである。鉦路のお蕎麦というの、鉦路の食文化という風に言われ始めており、皆さんお蕎麦を食べるタイミングは、年越し蕎麦とか、そういうイメージがあると思うが、鉦路の蕎麦は、お盆とかお彼岸とかにお墓参りとかお寺参りをした後に食べる習慣があり、実は日本全国を見ても鉦路だけである。鉦路は全国的に見ても蕎麦を食べる機会が多いので、鉦路にはお蕎麦屋さんの数が多い。今日は皆様とこれからの鉦路のことについても語っていきたいと思っている。</p>
森推進員	<p>「お二人の自己紹介が終わりました。質問を続けていきたいと思います。」</p> <p>「仕事をしていて、楽しさとかやりがいについて、教えていただければと思います。」</p> <p>「岡部教育長、お願いいたします。」</p>
岡部教育長	<p>先ほど皆さんに、教育長というのは会社に例えると社長だというお話を申し上げた。</p> <p>私は社長として、すなわち会社のトップとして大事なことが3つあると思っている。</p> <p>1つ目は、組織のトップとして1番大事なのは判断をすること。AのプランとBのプランがあったとして、どちらのプランにもメリット、デメリットは必ずあるが、どちらのプランにするかということを最終的に判断するのは社長であり組織のトップである。</p> <p>2つ目は、一旦下した判断については責任を持つ。このことが会社の社長として大事なことである。そのAのプランが必ずしもうまくいくとは限らないし、大失敗するかもしれない。しかしその時に仮に大失敗したとしても、自らが判断したことに責任を持つのが社長の役割だという風に考えている。</p> <p>3つ目は、日々、組織の中で、私で言えば、教育委員会を運営していくために何が課題かということにいろんな角度からアンテナを高くしながら、その課題を見出していき、そして解決に向けた糸口、これを模索していくのが組織のトップとしての役割だと思っている。</p> <p>こういう3つの役割を私は日々背負っているので、実は難しい場面もいくつもある。むしろ、そういった難しいこと、困難なことの連続だと言っているのかもしれないが、この前はこういうやり方をして失敗したけども、次に違うやり方をしてその課題を乗り越え克服できたこともいくつもある。</p> <p>そういった自分なりに課題を設定して、それを乗り越えていく、そのことに仕事の楽しさややりがいを感じる日々であるし、困難を乗り越えられるから、私は今もこの仕事を続けられているのかもしれない。</p>
森推進員	<p>「ありがとうございます。あとで皆さん、いっぱい質問していただきたいと思います。」</p>

「星野理事長、お願いいたします。」

星野理事長

今は実家のお蕎麦屋さんの稼業を3代目として継いでやっているが、小さい時からその仕事の内容というのは見てきて、19歳の時に初めて仕事に携わったが、なんとなくやり方というのは目で見てきてわかっていたつもりではいたが、なかなか実際やってみるとできなかった。でも、それが1つずつできてくると、さらに、他の人よりも、早く丁寧にやって、極めてやろうみたいな、そんな気持ちも芽生えてきた。それがどんどんできるようになってくると、従業員だとかに褒めてもらい、認めてもらえるようになり、それが自分の給料という形で現れてきて、少しずつできないことができるようになってきて、もらえる給料も上がっていく。それが仕事をしているのやりがいだとか、楽しさに繋がってくると思っている。自分ができることをどんどん増やしていくと、できなかったことにチャレンジしてみようという風に、自分自身の気持ちも上がってくる。お蕎麦をいっぱい作るのに、いろんな作業工程を1人である程度できるようになってきて、その蕎麦をお客さんに提供する。また、お蕎麦屋さんの仕事は、お蕎麦を作ってお客さんに渡して終わりではなくて、それを最後まで食べてもらって、美味しかった、またこのお店に行きたいなっていう風に思わせるまでが僕の仕事だと思っているので、実際にそうやって自分が作った商品をお客さんに食べてもらって喜んでもらえる、そういったところが、やりがいや楽しさを1番感じられるところだと思っている。

森推進員

「はい、ありがとうございました。」

「お二人のお話にも、共通しているところが出てきたと思いますが、難しいことや困難の連続だけれど、それを乗り越え、課題を克服することによって、また、できないことができるようになるということにやりがいを感じるというところが見えてきたのではないかなと思います。」

「後ほどたくさん質問していただきたいと思います。」

「それでは、3つ目です。ふるさと教育ということで、お二人は今釧路で働いているわけですが、なぜここで働くことになったのか、また、実際に長きにわたって釧路で働いている中で良かったことなどがありましたら、お話いただければと思います。」

「星野理事長からお願いしてよろしいでしょうか。」

星野理事長

18歳の時に、高校を卒業して、1年間だけ札幌の方に行かせていただいた。自分の両親からは、自分のやりたいことを見つかるのであれば、それはそれで挑戦してやってもいいから、別にお店を継ぐことを考えなくていいと言われていた。実際に自分も子供の頃は大工をやりたいなとか思っていたりもした。でも、実際に高校を卒業してから、お菓子作りを好きでやっていたこともあり、親には言わなかったが、パティシエを目指そうかなと思ったりした。自分のやりたいことを模索していたが、小さい頃から親の仕事を見てきたということもあるし、親孝行をしてみたいという気持ちもあったので、お蕎麦屋をやろうかなと考えた。

もう1つは、地元釧路に友達が結構残っていたので、札幌という土地で生活するのは、いろんな人もたくさんいて、都会感みたいなのところもあり楽しかったが、札幌にいて寂しく感じたこともあり、地元の友達の繋がりがあがる釧路で働くのもいいのかなという風に思い、釧路に戻って、実家を継ぐという選択をした。

長きにわたってこの釧路で働いて実際に良かったと思うことは、自分の人生これから何十年、20歳、30歳、40歳、50歳と考えた時に、仕事だけを見て生きていくのはあまり面白味を感じないと思い、それで釧路青年会議所に入ったが、そこで、たくさんの仲間と一緒に釧路の課題に対して、自分たちでできることはないかという風に活動していくことが楽しく、自分の人生において、仕事以外のプラスアルファの楽しさを見つけていく、そんなきっかけになった。自分の仕事でも、地域との繋がりを持てれば、もっと楽しいこともできるのではないかなと思っている。

自分のお店のことだけではなく、もっと地域の外から自分のお蕎麦を食べてくれる人を呼び込むためには何をしたらいいのか。自分のお店だけを見るのではなく、釧路にある自分のお店という風に見た時に、自分は地

<p>森推進員</p>	<p>域のためにどうやって自分のお蕎麦をプロモーションできるのか。そんなことも考えているところである。そういう人との繋がりや地域との繋がりを感じると、本当に釧路で働いてよかったと思っている。</p> <p>「仲間がいっぱいいたということで、ここで活躍する中でさらにそういった仲間が増えていって、釧路に来てよかったという話をさせていただきました。」</p> <p>「教育長、お願いいたします。」</p>
<p>岡部教育長</p>	<p>実は私は釧路生まれではない。旭川という町で生まれて、幼稚園ぐらいまでは旭川市で住んでいた。それ以降は釧路で育ってきたが、大学に行って、大学4年の時にいくつか、企業を受けて、もちろんいくつかは合格したが、合格しなかった会社や事業所の中で、1番落ちたことがショックだったのが釧路市役所だった。それで、その年に受かったところにはお断りを入れて、もう一度釧路市役所を来年受けようと思った。次の年に市役所を受けて合格をさせていただき、以来、市役所の中で、教育長も含めて40年を超えるぐらい働いてきたところである。きっと最初のうちは、ふるさと釧路で働くといったことまで、若かったので思いが至っていなかったかもしれないが、ある日、職場の上司に烈火のごとく怒られて、何のために仕事をしているのだと言われたことがあった時にすぐ答えることができなかった。その日は憂鬱な気持ちで家に帰ってからずっと、自分は何のために仕事をしているのだろうと考えた。24歳ぐらいの時だった。ほとんど眠れないような夜を過ごしながら、ようやく自分なりに答えが見えて、その次の朝、その職場の上司に、私は釧路市民のために仕事をする。その目的で市役所に入った。市民の皆さんを幸せにするために市役所に入った、そんな返事をして、その上司から、よしわかったと言っていたことを今でも忘れない思い出として持っている。それ以降も、この釧路で働きながら、釧路の人たちと仕事をさせていただく中で、釧路の人たちに笑顔になってもらいたい。皆さんの笑顔のために、それをやりがいとして私は仕事をしているのかなと、そんなふうにも思っているところである。</p>
<p>森推進員</p>	<p>「釧路の市民の皆さんを幸せにするために市役所で働き、今は笑顔になってもらえるために仕事をしている。まさにふるさとのことを思わなければこういった仕事を実現していかないのではないかと思います。」</p> <p>「岡部教育長と星野理事長に、皆さんから、今までの話聞いて、質問をしていただければと思います。」</p> <p>「質問あるところは挙手をお願いいたします。」</p>
<p>共栄中</p>	<p>岡部教育長に質問。なぜ市役所に落ちてそんなに悲しかったのか。</p>
<p>岡部教育長</p>	<p>落ちると思ってなかったから。皆さんの人生これからも必ずしも順風満帆ではないと思う。いろんな挫折みたいなものがあると思うが、私にとってはあまり落ちるイメージを持ってなかった市役所に落とされたというのは相当なショックだったと思う。今となっては、この歳になってみればいい思い出だなと思うが、その時々にはショックに思うことも皆さんもたくさんあると思う。その時は辛い思い出かもしれないけど、やがて時間が経つと、そういったいくつかの辛い思い出は懐かしい、ひょっとすると笑えるような思い出になっていることもある。</p>
<p>美原中学校</p>	<p>星野理事長と岡部教育長に質問。</p> <p>ライフワークかライスワーク、どちらを意識して仕事をしているか。</p>
<p>星野理事長</p>	<p>私はライフワークを重視している。もちろんそのライスワークも、お金を稼ぐことも大切だと思うが、やはり人生一度きりなので、いろんな仲間と一緒に楽しいことをたくさんやりたと思っている。今月もう少ししたら霧フェスティバルというお祭りがあるが、それも今僕らが中心となって進めているものである。霧は釧路の</p>

	<p>中で厄介者というイメージだったが、それが過去40年位前に、釧路の厄介者の霧を逆転の発想で観光資源にして霧フェスティバルができた。楽しい発想に切り替えて、みんなでやっていく。そんなライフワークを充実する人生っていう方が好きだ。これからもその方を選択していくと思う。</p>
森推進員	<p>「教育長、お願いいたします。」</p>
岡部教育長	<p>全ての仕事について、ライフワーク的な部分というのとライスワーク的な部分というのは、一定程度の割合でそれぞれにみんなあると思う。全員違うと思うが、働くことの意義はそれぞれによって違うし、全てライフワークという人もいらっしゃるかもしれないし、そうでない方もいらっしゃるかと思う。それぞれにとっての働くことの意義や意味は1つでもないし、割合も一様ではないと思う。ただ一つ言えるのは、これまでのディスカッションの中でも言ったが、その働くことの必ずどこかに、その人にとってのやりがいみたいなものがないと、つまりライフワーク的な要素がないと、きっとその仕事というのは長続きしないだろうと思う。今、大学を出た卒業生の約3割が3年以内に離職している。高校卒業生でいくと4割が3年以内に離職している。きっとそれは、働く前に抱いていた仕事に対するイメージと、実際にそこで働いた時のイメージのギャップが離職率に繋がっているのかなと思う。ぜひ、中学生の皆さんには、将来社会に出ていった時のイメージであるとか、働くことのイメージを、今日のふるさとキャリアシンポジウムを通じて、しっかりと見極めていただければとお願いしたい。</p>
森推進員	<p>「これまで色々お話していただきましたが、参加している釧路市の全中学校1年生に対してお二人からエールをお願いしたいと思います。」</p> <p>「最後の話になります。よく聞いていただければと思います。」</p> <p>「星野理事長からお願いいたします。」</p>
星野理事長	<p>仕事をする上で1番何が必要かという、どんな仕事にも相手がいて、やっぱり相手がいないと仕事も成立しないので、自分から見てのお客さんが何を求めているのか、その人が求めているニーズをしっかりと捉えて仕事に向かうべきだし、人生一度きりって言っていた自分の考えでいくと、仕事だけを頑張っても長続きしないと思う。19歳で自分のお店に入って、25歳で青年会議所に入ったが、最初このお蕎麦屋さんの仕事1本で6年間やり続けてきた時に、ちょっとやりたくないなという時期も正直あったが、いろんな人と知り合えたことをきっかけに、自分の仕事の見方も変わった。仕事だけ見ても長続きしないのではないかと自分の経験上思う。だからこそ、この地域の人とたくさん関わりを持つことも大事だし、今皆さんの同じクラスにいる同級生やその仲間を大切にしてほしいし、仲間1人1人を思いやる心も必ず仕事に通じていくものだと思う。この人は今どういうことを考えているのだろうか。仕事も同じく、このお客さんは何を求めているのだろうかという考え方は、自然と身につくことで、この後、社会に出た時に絶対必要になると思う。</p> <p>そういうところも意識しながら、これからの学校生活を送ってもらえればと思っている。そして、こういった授業を機に、地域のいろんな人をたくさん知ることによって、自分のその感性というものをもっと広げていただければと思う。</p>
森推進員	<p>「岡部教育長、お願いいたします。」</p>
岡部教育長	<p>今の世の中は将来の予測がなかなか難しい時代になっているという、こんなふう言われている。</p> <p>皆さん、生成AIって聞いたことあるか。チャットGPTであるとか。これから皆さんが生きていく社会、なかなか予想や予測がつきづらい時代だという風に申し上げたが、例えば北海道大学の川村教授こんなことを言っている。「10年後のハローワーク」という著書が出ているので、もし参考としたい方は図書室にあった</p>

ら借りてみてほしい。この著書にはこんな風書いている。「これからの仕事というのは、意思決定と作業に分解される。このうち、作業するこの部分に関しては、相当な割合でAIにとって変わられるだろう。」と書かれている。もう少しわかりやすく書いている部分には、「これからの社会は自分で何をするか決める仕事は残る。ただ、人から言われてやる仕事はAIにとって変わられる」こんな言い方もされている。

一方、キャシー・ディヴィッドソンという学者の先生は、子供たちの65パーセントは今後大学を卒業した後には今は存在していない仕事に就く、この割合が65パーセントだと言っている。学校の先生は今ある仕事である。皆さんが大学を卒業した頃には3人に2人は、今はない仕事に就く、そんな世の中がやってくるという風にいわれている。そのため、皆さんが今後どういった仕事につき、どういった社会を生きていくかというのは、我々大人も経験をしていないので教えられない。

皆さんはぜひ今後自分の力で、そういった将来に対するいろんな情報をタイムリーに取り込みながら社会との関わり方を考えていただきたい。最後に1つだけお願いしたいことは、去年までこのシンポジウムはキャリアシンポジウムと呼んでいたが、今年から「ふるさとキャリアシンポジウム」ということで、タイトルを変えさせていただいた。今、民間の人口戦略会議の団体は消滅可能性自治体というものを公表しており、北海道でも、179ある市町村の中で、今後将来的に人口が減って消滅する可能性がある自治体をこの釧路も入れて117あると言っている。皆さんには、これからの将来、ぜひ、この釧路の町で生きていくこと、釧路の町で働くということ、こういったことも将来的な選択肢の1つとして検討の中に加えていただくようお願いをしたいと思います。

森推進員

「質問を受けたいと思います。」

青陵中学校

2人が考える釧路の魅力は何ですか。

星野理事長

釧路の魅力というのはたくさんあると思うが、皆さんがイメージしやすいのは、釧路は世界三大夕日の町だとか、全国的に見ても涼しいとか、釧路湿原など、色々あると思うが、釧路に住む「人」が魅力だと思う。いろんな素晴らしい人がいて、この地域を思う人がいることが、地域の魅力だと思っていて、やはり地域を輝かせるのは人だと思っている。その人がその魅力を伝えるからこそ釧路地域というのは輝くと思っている。釧路の魅力はと聞かれたら、釧路に住んでいる人であると考え。

岡部教育長

今ご質問いただいた生徒さんに同じ質問を私からしたいのだが、あなたは釧路の魅力をどういう風に思うか。

(中学生)

釧路の魅力は、お互いで協力し合って支え合っているところだと思う。

岡部教育長

私も、星野理事長がおっしゃられたこと、それから今の発言の通り、釧路というのは意外と温かい人がたくさんいる町だなという風に感じているので、今後、この釧路の街を切り開いて、特に皆さんの世代にこの町を盛り上げていただきたいし、その時に、そういった人の温かさもこの町の魅力であるということを皆さんにはどんどん発信をしていただければと思う。

森推進員

「人とのかかわりをととても大切にしながらやっていくこと。問題解決をしたりしていくためにも、人からいろんなことを経験して、学びながらやっていくという話でした。大変素晴らしい質問をしてくれまして、どうもありがとうございます。」

鳥取西中	<p>星野理事長に質問。</p> <p>今までの人生の中で1番嬉しかったことと悲しかったことを教えてください。</p>
星野理事長	<p>あまり自分の中でランク付けというものはしたことはないが、誰かと一緒に何かができた後の達成感というのは、自分にとって嬉しい時である。</p> <p>釧路は大都市に比べたら何もないなどと思う人も多分いると思う。僕も皆さんと同じぐらいの時はそう思っていた。でも今になって、何もないからこそなんでもできるという感覚がすごくある。だから、仲間とともになんでも自由に自分たちで作れる環境がこの釧路にはすごくあると思っていて、そういうことが何か1つできた時に、嬉しいなと思う。</p> <p>悲しかったことに関しては、割とそんなに悲しいという風に思ったことがなくて、もちろん何かをやる上での心配とかは、最終的にそれも全て経験だと思っているので、失敗というよりは、いい経験したな、じゃあその次に繋げてみればいいかなという風に考えているので、悲しいことはあまりない。いい経験だったなと思うようにしている。常にポジティブに行こうかなと思っている。</p>
幣舞中	<p>星野理事長への質問です。蕎麦屋さんをやってきた中で1番の出来事、事件とか、何かの事故があったことはないですか。その時に思ったことはなんですか。</p>
星野理事長	<p>仕事に関わるトラブルみたいな事件みたいなことですが、うちのお店は2回ほど泥棒に入られていて、戸締りはしっかりするように気を付けている。あと、お店が1階で2階が住宅になっているが、子供の頃、自分の部屋にいる時に、急に家がドンと揺れた。何かなと思ったら、初代のおじいちゃんが蕎麦の窯をガス爆発させてしまった。火がついてないのにガスだけずっとこう充滿していて、着火した瞬間にガスが爆発して窯が壊れて大惨事になったということもあった。仕事のことはあまり関係かもしれないが、そういったところも気を付けていかないといけないと思っている。</p>
鳥取中	<p>2人が考える働くことの意義の時に、岡部教育長が言っていた2つ目の「一旦判断をくだし、判断することに責任を持つ」という答えに質問がある。判断を間違えた時はどうするのか。</p>
岡部教育長	<p>判断を間違えたなと思ったら、スピード感を持って、勇気を持って変える。そういう新しい判断をする。いつまでも自分の判断だからということでそれに固執しているとさらに大きな間違いをするので、間違ったと自分が思ったらすぐ判断を変えることは何にも恥ずかしいことではないと私は思っている。</p>
阿寒湖義務教育学校	<p>お二人に質問です。</p> <p>働く中で1番大変なことはなにか。</p>
星野理事長	<p>仕事する上で大変だと思うのは、やっぱり準備である。</p> <p>お蕎麦を注文したら、多分1分半ぐらいで1食提供できるぐらいのスピードはある。ただ、その1分半で提供するまでのその、仕込みと言うが、その準備作業というところがやはり何事も大事だと思っている。</p> <p>何をやるにしても事前の準備というのは非常に大切だし、そこを怠ってしまったら、実際の本番というところが全てうまくいかない。「何事も段取り8割」という言葉は大切にしている。</p>
岡部教育長	<p>私も職員として入って、その時々で色々責任を持たなければならない仕事というのはたくさんあるが、いざ会社の社長になった時の責任と、一般の職員の時の責任と、それは全然重みが違うので、今教育長を7年8か月</p>

	<p>ぐらいやっているが、トップとして責任を下す、そのことの辛さみたいのはある。組織のトップは周りに誰もいないので、全部自分で決めて、責任持たなければならないので、それはなかなかヘビーである。目指して頑張ってください。</p>
景雲中	<p>今すぐに解決しないといけない釧路の課題はなにか。</p>
星野理事長	<p>1番解決しなくてはいけない課題というのは、今年の釧路青年会議所の活動にも関わってくるが、釧路の経済的な部分はずっとできることがあるのではないかと考えており、先ほど釧路の魅力は人であると伝えたが、人の魅力というところを、釧路地域外の人たちにどうやって示していくのか。外部の人が釧路に来てくれるその仕掛け、きっかけについて、何かいい仕組みはないかと考えていて、今、釧路青年会議所で活動しているところではあるが、そういった観点から、もっと釧路の経済状況を良くしていったら、それがしっかりと経済が上れば雇用というところにも繋がっていくし、地域にとってメリットが生まれてくると考える。まずは外部からの経済状況をどうやって良くしていくか、そういったところを重点課題の1つとして青年会議所で行っているところである。</p>
岡部教育長	<p>私からは、やはり人口減少がなかなか止まらないということが大きな課題だと思う。これをどうやって解決していくか、これもまたなかなか難しい問題だが、今星野理事長がおっしゃられた、そういった経済も含めて、この地域をいかに活性化していくか、これが唯一の人口減少社会に対峙していく答えかと思うし、そのためには、私は教育長なので、教育環境をどうやって充実させながら、いかに皆さんと一緒に教育の力でこの町を盛り立てていけるか、これを今後ともしっかりと考えていかなければならないと思っている。今のご質問は、これから戻って、鶴間市長にもしっかりと伝えたいと思う。</p>
森推進員	<p>「1つのものを極める中で、課題を見つけて乗り越えていくということは、難しいこと、困難なことの連続だと思います。皆さんも課題を日々見つけながら、その解決に取り組んでもらえればと思います。」</p>
大楽毛学校	<p>星野理事長に質問。 蕎麦屋と青年会議所の掛け持ちは大変ではないですか。</p>
星野理事長	<p>もちろん大変な部分はある。仕事もしなきゃいけない時間帯に青年会議所の活動も重なるというタイミングもあるが、やっている自分自身が楽しいし、こういった青年会議所活動で地域が良くなれば自分の会社にも反映される部分もあるので、そういった思いでやらせていただいているので、青年会議所活動も仕事もしっかりと両立できるように日々努力が必要だと思っている。</p>
森推進員	<p>「岡部教育長、最後に一言お願いいたします。」</p>
岡部教育長	<p>これから皆さん、それぞれのクラスにおいて、このキャリア教育の授業の中で、自分たちの将来を考える時間になると思う。 中程で私が申し上げたが、皆さんの将来の選択肢は無限である。様々な可能性を持っているのが皆さんである。そういった中で、1人でもいいので、この釧路で将来何かやってみたい、それを自分の選択肢にしたいと思った生徒さんがいたら、今日このふるさとキャリアシンポジウムを行った意味があると思うし、ぜひこれからの議論で話し合っただけであればというのが私からのお願いである。</p>
森推進員	<p>「それでは、司会バトンタッチしたいと思います。」</p>

佐藤指導主事	<p>「佐藤指導主事、どうぞよろしくお願いいたします。」</p> <p>パネラーを務めていただきました星野理事長、岡部教育長、そして森進推員、ありがとうございました。また、ご参加いただきました皆さん、先生方にも感謝申し上げます。</p> <p>本日、質問できなかったことがたくさんあったと思います。</p> <p>ぜひ、この後のアンケートに記入してください。可能な範囲でお答えし、皆さんに伝わるようにいたします。</p> <p>ということで話し合いをしてください。先生方、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。</p>
--------	---